

## 5章1節12 探究ナビⅡ「課題解決」

授業者：酒井将平 他 1年間 2年生全クラス

本質的な問い	当事者の立場を踏まえ、多角的に課題を検討し解決できる。		
達成目標	<p>①KJ法、ロジックツリー、優先度リストなどの課題解決の知識、技術を組み合わせ、実現可能で効果的な解決策を提案することができる。</p> <p>②ワークショップを通して、「自己」と身近な「他者」の双方の立場から世界に関係づけ、価値を創造することができる。</p> <p>③「学び」について自分の観点から捉え直し、自分が何をどのように「する」かについて判断することができる。</p>		
論点 (深めるために)	「わかっているのにできないのはどうして？」		
実践の振り返り	<p>①課題解決のプロセスを意識できるようになったが、創造性ととのバランスをとることが難しくなった。</p> <p>②担任や小学生などの「一歩離れた他者」の課題を設定した。実際に解決策を試して効果をフィードバックすることで学びの動機づけとなった。</p> <p>③抽象的な取り組みになってしまったが、進級後の課題を示唆することができた。</p>		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	<p>②KJ法、ロジックツリー、優先度リストとはどのようなものか？</p> <p>④修学旅行先の地域はどんな課題を抱えているだろう？</p>	<p>③クラスや学年で困っていることにどのような解決策を提案できるか？</p>	<p>①担任の先生が困っていることに対して、どのような解決策を提示することができるか？</p>
洞察を促す問い	<p>⑤ワークショップをどのようにデザインするか？</p> <p>⑨「学び」にはどんな力があると思いますか？</p>	<p>⑥どのようなワークショップをすれば、小学生が携帯トラブルに巻き込まれないか？</p> <p>⑩「わかっているにもかかわらずできない」のはなぜだろう？</p>	
本質的な問い		<p>⑪あなたにとって「深い学び」とはどのようなものですか？</p>	<p>⑦ワークショップを実際にやってみて、さらに小学生が学びを深めるためにはどのようにしたらよいか？</p> <p>⑧携帯トラブルに巻き込まれないために自分たちにどんなことができるか？</p>
生徒の変容 (ICE ルーブリック)			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	KJ法、ロジックツリー、優先度リストなど、課題解決に資する知識や技術について手順書を真似て使うことができる。	KJ法、ロジックツリー、優先度リストなどを用いて課題を分析し、解決策を提案することができる。	課題解決に資する知識や技術を必要に応じて組み合わせ、実現可能で、効果的な解決策を実践することができる。
教科・科目に特有の見方・考え方	課題の中に、自己とは異なる他者の存在を認識することができる。	課題に取り組む中で、自己と他者の間に生じるジレンマに向き合い、新たな観点から両者に関係づけることができる。	課題に取り組む中で、自己と他者の間に生じるジレンマを引き受けた解決策を考え、その実践によって新たな価値を創造できる。
汎用的な能力	「学ぶ」とはということか説明することができる。	「わかる」と「できる」ことの違いについて考え、独自の観点から関係づけることができる。	「学び」について考えを深め、自分が「する」ことを判断し、行動できる。